



## 東京の富士をめぐる小さな旅 おふじさん巡り

■江戸の昔、目黒のサンマと並んで有名なのが目黒の富士だった。歌川広重の「江戸百景」には2枚の目黒富士が描かれている。右の絵はそのうちの一枚で、「目黒新富士」である。遠くの富士山を見晴らす位置に作られた人造のミニ富士だが、ちゃんと登山道もあり頂上に登れるようになっている。

■目黒新富士は別名近藤富士とよばれ、樺太探検で有名な近藤重蔵の別邸に文政2年（1819）年に築かれた。この新富士とは別に目黒には元富士もあった。広重の絵は「元不二」とある。こちらは1812年に伊右衛門という富士講の先達が願主となって造ったものと言われ、10mほどの高さがあったという。

■富士山に登って修行することは役行者の時代（700年頃）から行われていた。聖徳太子も登ったと言われる（？）ように、修験者たちの霊峰への関心は高かった。江戸の時代になると修験者たちが一般の人たちを先導して富士登山を行うようになった。その人たちを先達とよんだ。先達の中には「登山100回」などという人たちもいた。当時の状況を考えれば、とんでもない回数だ。そうなりとほとんど神様使いになる。日本では昔から山岳修行を成し遂げた人を崇拝する精神風土がある。仏教界でも、千日回峰行というとんでもなく危険な行う人もあり、成し遂げた人は大阿闍梨として尊敬を集めている。近年世界遺産になった熊野でも奥駈けと称して奥深い熊野の峰峰を歩く修行が今でもなされており、登山者にも人気を集めている。高い山には霊力があり、そこへ何回も登ると霊験をうけると考えられており、人々はその霊験にあやかりたくて高山に登った。

■先達さんたちは「講」を作って、富士登山の先導案内をする一方、実際の富士山に行くことができない人たちに、その気分を味あわせるために江戸の町に人造のミニ富士を作った。江戸には八百八講があったという。それぞれがミニ富士、富士塚を作った。一般の庶民は富士塚を「お富士さん」と親しみをこめてよんだという。6月朔日は富士の山開きだが、それにあわせてお富士さんでも山開きが行われ、縁日が開かれた。今ではごく一部のお富士さんでしか縁日はないが、それでもいくつかの講は続いている。

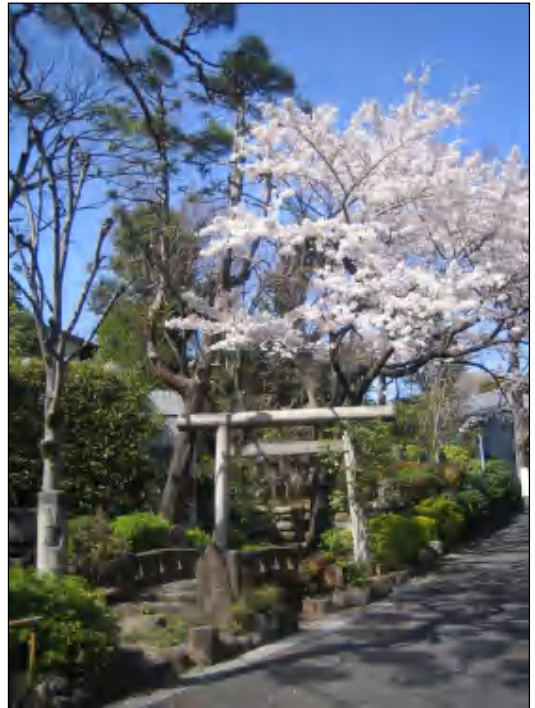
■私は、今でも盛大な縁日が開かれている十条富士のすぐそばに住んでいたこともあり、昔からお富士さんに関心は高かった。これまで東京中に残る富士塚を探して、ほとんど回ってみた。今回は東京のお富士さんの先達になって、みなさんをご案内しようと思っている。



### ■護国寺の中の富士さん

護国寺は「生類哀れみの令」の徳川五代将軍綱吉の母、桂昌院の発願によって作られた真言宗豊山派の大本山だ。ちなみに総本山は奈良の長谷寺。将軍さまはお母様に会うために16回も護国寺に参詣した。お供は千人を越える行列で「御成道（おなりみち）」、今の音羽通りを進んだ。もともとは神田川につながる小さな川が流れていたが、それを埋めて800mもの真っ直ぐな道を造らせた。護国寺の上から見ると、お成り道の先に江戸城が見えたそう。ちょっと試してみよう。

将軍が護国寺に何回も来たのは親孝行のためだったと言われている。綱吉はこの付近に音羽という奥女中を住まわせていた。音羽の名前は、この奥女中の名をとったものだから、有名人だったのだろう。将軍さまが足繁く護国寺を訪問したのは本当は彼女に会うために来ていたのではないかな。などと多少の勘ぐりをすると、歴史の楽しみだ。



### ■桂昌院

もともとは京都紫野の八百屋のむすめでお玉といった。それがひよんなことから家光の側室の侍女として江戸へ行った。すばらしい美貌は春日局に認められ、家光の側室になり男の子を産んだ。家光の死後は桂昌院という尼さんになった。しかし四代将軍家綱は子を残さないままなくなった。その跡を桂昌院の子、綱吉が継ぐことになり、桂昌院は大奥を支配する権力を得た。「生類哀れみの令」は綱吉に子が授かるようにと桂昌院が発案した。正室をさしおいてそんなことをしてはいけない。嫁姑の争い、桂昌院の願いもむなしく、綱吉に世継ぎはできなかった。

朝廷は桂昌院に従一位の位を贈った。その勅使を迎える接待役が江戸城で不祥事を起し、即日切腹させられた。その接待役は浅野内匠頭、松の廊下の事件である。桂昌院の知らぬところではあるが、歴史はいろんなところでつながっている。桂昌院は自分の護国寺ではなく芝増上寺に葬られている。ついでながら玉の輿という言葉があるが、これは八百屋の娘、お玉が将軍さまの母になるほどの出世をしたことにちなむという説がある。

## ■音羽富士

それはともかく、護国寺の仁王門をくぐると大きな石段が目の前に現れる。その石段を登らず右手を見ると鳥居がある。お寺に鳥居とはおかしいことと目くじらを立てることはない。台地の末端の傾斜に富士の熔岩を積んで築かれた富士塚で、登山道もきちんと作られている。この富士塚には地元の山護講のほか数多くの富士講の石碑が建てられている。頂上の祠には「富士浅間神社」の新しい石碑がある。塚の右側には、富士の洞くつを模した洞窟がある。木花咲耶姫命の碑が収められている。登山道には小御嶽石尊大権現・大天狗・小天狗の碑があるが、これも富士山の小御岳を模している。

これだけ立派なお富士さんは他にはあまりないが、文化財には指定されていないので、だれでも登ることができる。江戸時代、今の豊山高校付近に作られたものを明治になって今の場所に移築したので、文化的価値は少ないとのことなのか？

## ■豊島岡墓地

護国寺の本堂は池袋に続く台地の上にあるが、下から見ると山のように見えたので、権現山などといわれた。もともと護国寺は墓地を持っていなかったのだが、明治の元勲が墓をつくりはじめた。さらに皇室は敷地の半分以上を召し上げて皇族の墓地にした。もとは豊島岡墓陵と言ったが、「陵」は天皇皇后の墓だけなので今は豊島岡墓地という。一般人は入ることはできない。仁王門の並びに開かずの御門がある。皇族の葬儀の時にのみ開かれる。皇籍を離脱した清子さんはこの墓に入ることはできないらしい。

## 白山富士 全山あじさいのお富士さん 白山神社境内

### ■縛り地蔵・富士坂

ちょっと寄り道して拓殖大学前の林泉寺の「縛られ地蔵」をみる。八代将軍吉宗の頃、奉行の大岡越前さまは「反物を盗んだ犯人はこの地蔵だ！」という裁きをした。実はそれは囃子で、本物の犯人が一網打尽にされるという「巷談大岡裁き」のお話だ。先日葛飾区を歩いていたら、南蔵院というお寺に「縛られ地蔵」があった。そこらは縛るための荒縄を1本100円で売っていた。茗荷谷林泉寺の地蔵は前回行ったときにはビニールヒモで縛られていたが、今回見たら5円玉をぶら下げた荒縄で縛ってあった。願いが叶うと縄を解くのだそうだ。

林泉寺から地下鉄のガードをくぐって（地下鉄の下をどうやってくるの？）春日通にでる手前に、車がひっくり返りそうな急坂がある。これを富士坂という。坂下にあるお寺の藤がきれいで、3代将軍家光が「藤寺」とするようにとったので、この坂は藤坂と名付けられたというが、もともとは富士さんが見えたので富士坂だったとも言う。坂の途中からはいい水が涌いたそうだ。

### ■小石川植物園

東大の付属植物園だが、5代将軍徳川綱吉の「白山御殿」の跡地に幕府が作った「薬

園」がこの植物園の前身。将軍さまはいったいいくつ御殿を持っていたんだろうか。名君といわれた八代将軍は目安箱というものをもうけて庶民の意見を聞いた。それで実現したのが貧民のための医療施設、小石川養生所だった。いまは植物園の中の井戸が残るのみ。……山本周五郎の小説赤ひげ診療譚の舞台となったところ。

植物園の脇の坂をのぼると東洋大学の法科大学院。もとの書記官研修所。下る坂は蓮華寺坂で、坂下が白山下交差点である。



### ■ 白山神社

地下鉄の出口から大きな鳥居をくぐり、白山神社の拝殿脇から裏手に出ると下の写真のような鳥居が見える。この背後が富士塚であるが、門が閉められて登ることはできない。ふつうの富士塚のように熔岩がゴツゴツしている様子は見えないが鳥居に浅間神社とあるからお富士さんと分かる。富士講の石碑はこの塚にはないが、裏手の金網の脇に2基、捨てられたように並んでいる。

この富士塚がふつうの「お富士さん」にみえないのは全山があじさいで覆われているからだろう。あじさい時には開放され、登山可能。富士さんは熔岩がむき出しになった荒々しさが必要だ。でもまあ気にしない。

この富士塚は台地の上にあるようだが、それでも参道から見ると台地の上に堂々と立っているように見える。あまりにもきれいな円形の姿から、円墳を利用したのではないかとの推測もある。私もそう思っているのだが、証拠は見つかっていない。

### ■ 八百屋お七の墓

白山下から本郷台にのぼる坂の途中に「八百屋お七」地蔵がある。八百屋お七の話は、天和2年(1682)の大火事の際、お寺に避難したがそこで出会った吉三に一目惚れしたお七は、家に戻った後に再び吉三にあいたくて、放火する。火事になればまた吉三に会えると思ったからだ。天和の大火では芭蕉庵が焼けて居場所のなくなった芭蕉は「野ざらし紀行」の旅に出、以後漂泊やまず。これも五代将軍綱吉の時代の話だ。お七は16歳になったばかり、15歳以下は死刑にならない決まりだった。お奉行さまは「15歳だね」と言ってくれたが、16歳だと言い張ったので、鈴が森刑場で火あぶりになった。お七の生まれた年は丙午の年(実際には戊申生)、この年生まれの子は縁起が悪いといわれるので、縁談に差し支えたという迷信ができた。いまでもそれが生きており、1966年生まれの子は極端に少ない。実際には大学受験、就職などでは得したのだが。秋篠宮の奥様は丙午生まれ。

## 身禄の墓 これも富士塚、本郷海蔵寺

### ■海蔵寺

天和の大火の火元の大円寺には「ほうろく地蔵」がある。これもお七さんに関係ある地蔵さま。火元だったので大円寺の敷地は縮小された。向丘高校の脇をとおり、本郷通を渡って進むと海蔵寺がある。ここは曹洞宗大智山海蔵寺といい、禅宗のお寺である。ここには相撲人の墓がいくつもあることでも知られている。



### ■身禄行者の墓

私はこの寺には何回か来たことがあるだが、ここに「富士講」中興の祖である身禄行者（寛文11年(1671)～享保18年(1733)）の墓があるということは知らなかった。129回も登山した長谷川角行によってはじめられた富士山信仰は、身禄の頃には退廃的になっていた。彼はそれを嘆き、庶民の苦しみを救おうと、富士山七合五勺の烏帽子岩近くの石室で断食入定した。その間に弟子たちに伝えられた身禄の教えは、広く江戸庶民の信仰をあつめた。1707年宝永4年富士山は大爆発した。これも五代将軍綱吉の時代。身禄の入定はその25年後である。墓碑は、熔岩でつくられた富士塚の山上にある。

### ■辻のヤッチャ場

海蔵寺から本郷通に出て白山上の交差点近くにくる。ここには「辻のヤッチャ場」の跡がある。ヤッチャ場は幕府の御用市場。江戸三大青物市場のひとつ。土のついたままの野菜である「土物」が取引きされたことから「駒込土物店（だな）」といわれた。辻は土がなまったもので、交差点の意ではない。1929年に「駒込青果市場」と改称し、1937年に豊島区へ移転した。

### ■目赤不動

ヤッチャ場の先で本郷通から「動坂」が別れる。これはもともとは不動坂だったが、それが「動坂」になった。坂の途中に駒込病院がある。不動は目赤不動のことで、江戸五色不動の一つである。ちなみに他は目黒、目白、目青（三軒茶屋）、目黄（三ノ輪）



である。もともとは赤目四十八瀧で修行した満行がここに小さな堂をたてたが、鷹狩りの途中で立ち寄った3代将軍家光が目赤にするように命じたという。目赤不動になってから庶民信仰を受けるようになったという。

## 駒込富士 もとは東大校内にあった

### ■吉祥寺

中央線にある吉祥寺は、明暦の大火（四代将軍の時）によって江戸の町が焼けた後、吉祥寺の門前に住んでいた浪人、農民を移住させた場所である。吉祥寺に吉祥寺という寺はない。吉祥寺はもとは水道橋付近にあったが現在地に移転した。曹洞宗の禅寺で幕府からも優遇された寺であった。修行僧も多く、教育システムは優れており、それがのちに駒沢大学となった。梅檀林（せんだんりん）という教育所が駒沢大学の前身ということになる。



### ■上富士

本郷通を駒込の方向に行くと上富士交差点に出る。西には綱吉の寵愛を受けた大老柳沢吉保の隠居場所の六義園がある。上富士の町名はないが、これは駒込富士の上にある富士神社に由来する。この神社はもとは本郷にあった。それが移転してこちらに移った。もとの場所を本富士、今は本富士警察署にその名を残している。上富士の警察は駒込署という名前である。

### ■駒込富士・富士神社

富士神社は本郷三丁目交差点の本富士警察署の場所にあったが、加賀藩の上屋敷を造るために移転させられ現在の場所に来た。寛永六年(1629) 3代将軍家光の時代のことである。この神社の社殿は富士塚の上に鎮座しており、他の神社、寺の境内にある富士塚とは規模が違っている。これと同じように塚の上に社殿があるのは多摩川浅間神社、篠崎の浅間神社ぐらいなものである。祭神はニニギの命の奥さんで山幸彦のお母さんである木花咲耶姫である。山幸彦の奥さんは海神の娘で実際はワニだった。彼女が産んだウガヤフキアエズが神武天皇のお父さん。エエーッ、初代天皇はワニの孫だったの？

## ■富士講の碑・むぎわら蛇

石段の両側には富士講の碑がたくさんある。この神社は氏子を持たず、富士講の人々によって維持されてきた。旧暦の六月朔日は山開きで現在は月遅れの7月一日に山開きが行われる。その日は多くの屋台が出て賑わっている。

山開きにあわせて、縁起物の「むぎわら蛇」が売られている。この蛇を置いた家は、疫病がはやってもうつらないということで人気が出た。いまでも、厄除け、虫除け、病除けに効果があると信じられている。1個千円（2006年度）。



## ■六義園

この庭園内にも富士さんみたいなものがあるのだが、まだ未調査。いまはしだれ桜がきれいですから見ていきましょうか。さらにその先にはソメイヨシノの発祥地、染井墓地があります。

---

## ■次回の案内

### ■第2回（5月11日・金曜日）

深川あたりのお富士さん 中央区・江東区あたり

#### ●地下鉄有楽町線「新富町」改札口 10:00 集合

昼食は日本五大銘飯（?）・深川めし（2000円ぐらいします）

●コース 佃大橋から鉄砲洲稲荷「鉄砲洲富士」――→亀高橋から高尾稲荷――→お岩神社――→隅田川永代橋――→佐賀町――→深川不動・永代寺・富岡八幡「富岡富士」――→清澄庭園「清澄富士」――→深川めし・霊巖寺・六地藏――→時間があれば芭蕉稲荷。なければ大江戸線「清澄白河」駅で解散

### ■第3回（6月30日・土曜日）

いよいよ山開き 練馬・板橋・北区あたり

#### ●西武池袋線「江古田」北口前 浅間神社境内 10:00 集合

●コース 「江古田富士」登山――（電車）――→池袋・氷川神社「池袋富士」登山――（電車）――→十条・縁日「十条富士」――（電車）――→田端「田端富士」・赤紙仁王――（JR電車）――→小野照崎神社「下谷坂本富士」――→鬼子母神で解散

■今は7月1日が富士山の山開き。それに合わせミニ富士山も山開き。十条富士の縁日が最も賑わう。それにあわせ見物に行きます。きます。江古田、池袋はふだんは閉鎖されており、この日しか登れません。貴重な1日です。